式辞

　桜の花の咲き競う本日、校庭の木々には、万物の命の息吹きがみなぎる、希望の季節となりました。本日ここに鳥取県教育委員会教育委員、若原道昭様、同窓会会長、佐伯健二様、鳥取県議会議員、横山隆義様、北栄町長、松本昭夫様、をはじめ多数のご来賓のご臨席のもと、平成三十一年度鳥取県立鳥取中央育英高等学校入学式を盛大に挙行できますことは、私たち教職員一同にとって大きな喜びとするところであります。
ご臨席の皆様に心からお礼を申し上げます。

　また、今日まで愛情を注ぎ、育んでこられました保護者の皆様にとって、この入学式は感慨ひとしおのことと拝察いたします。心からお喜び申し上げます。

　ただ今、入学を許可いたしました１５１名の新入生の皆さん。ご入学おめでとうございます。早く本校の校風に慣れ、たくさんの友達をつくり学習や部活動に積極的に取り組んでください。そして、この入学という新たな始まりにあたり、これまで皆さんを育ててくださった保護者の皆様、中学校の先生方など多くの方々に対しての感謝の気持ちを忘れず、今の感動と新鮮な気持ちを持ち続け、これからの三年間を価値あるものにしていただきたいと思います。本校には熱心な先生方、素直で優しい先輩や友達がいます。また、広いグラウンドや多くの体育館などの優れた施設、緑豊かな自然があります。皆さんの可能性を広げることのできる環境が本校にはあると私は思っています。皆さんには、生き生きと、のびのびと、楽しく生活して欲しいと思います。学習に励み、体を鍛え、そして友情を培って、人生の基盤を確立し、世のため、人のためになる立派な大人になることを希望しています。

　さて、ここで本校の歴史について少し述べたいと思います。
本校は明治四十年、先覚者豊田太蔵先生によって山陰唯一の私立中学校として開校され、今年で１１３年を迎えます。豊田先生は、神話の時代から栄えた山陰は、明治の時代になってから立ち遅れてしまったと考えられ、山陰を発展させるためには人材を育てなければならない。という切実な思いから「育英黌」を創設されました。当時の県や地域の誰もが考えていない時代に、教育が大切だと先覚され、私財を擲って創設されたのです。

　豊田先生は、世の中に貢献する有為な人材になるためには「克己」の精神が大切であると訓育されました。「克己」とは己に打ち勝つことです。己の弱さに打ち勝ってこそ、志を成し遂げることができるということです。この建学の精神は、本校の歴史の中で連綿として生き続け、発展してまいりました。「克己」を校訓としている教育は、将来有為な人物になることを願っているのです。

この、本校創設の物語は、創立百十周年事業で作成されました小説「ばんとう」に描かれています。これを、本校同窓会から新入生全員に寄贈することになっています。しっかりと読んでいただきたいと思います。

全国に誇れる本校の歴史と伝統を創造していく気概に燃え、自主、克己の精神を奮い起こし、はつらつとした高校生活を送ってほしいと思います。

平成も今月で終わり、５月より新しく「令和」の時代となります。新しい元号とともに高校生活をはじめられる皆さんは記念すべき入学生となるわけですが、

皆さんが、活躍する今後の社会は、様々な面でとても変化が激しく、そのような社会で生き抜くためにはどのような変化にも対応できる能力や態度を身につけておかなければなりません。そのような能力や態度を培うのは、まさに、本校三年間をどのように過ごすかにかかっています。これからの高校生活において、焦らず、怠らず、それぞれが目標に向けて、一歩一歩着実に歩んでいかれることを切望しています。

終わりになりましたが、ご列席の保護者の皆様、本日から、保護者の皆様と我々教職員は分担して生徒の教育にあたることになります。そのためには保護者の皆様と我々教職員との信頼関係を基盤とした連携が必要です。こうした協力を元に、「優しいけれど甘くない」「厳しいけれど冷たくない」指導を心がけ、基本的な生活習慣の確立を図っていきたいと思います。このことは、必ずや学力、そして人間性の向上につながるものと確信しております。どうか、保護者の皆様、本校の学校の教育実践についてのご理解とご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

最後に、私たち教職員一同、信念と勇気をもって教育していくことをお誓い申し上げ、新入生歓迎の式辞といたします。

平成三十一年四月八日

鳥取県立鳥取中央育英高等学校長

宍戸　靖雄